

「あきたこまちR」への切替えについて

あきたこまちRとは

「あきたこまちR」は、カドミウム吸収性が極めて低い「コシヒカリ環1号」を「あきたこまち」に交配し、その後、選抜を繰り返しながら「あきたこまち」を7回戻し交配してできた品種（交配育種）です。カドミウム低吸収性を持つ以外は、出穂期、成熟期、収量、品質、食味等の特性において「あきたこまち」と同等です。

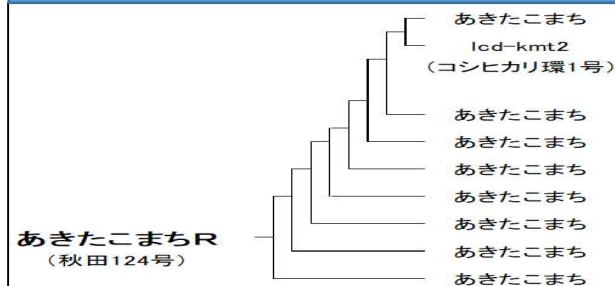
なぜ、あきたこまちRに切替するのか

- **安全な米供給のため** →カドミウムやヒ素の同時低減を可能としたい
- **輸出の拡大のため** →国際基準を見据えた米生産を目指したい
(国際基準値 カドミウム: 0.4ppm、ヒ素: 0.35ppm)
- **農家の負担軽減のため** →カドミウム吸収抑制のための「出穂期の前後各3週間の湛水管理」を縮減したい

今後の進め方は

- ・令和5年度 原種生産開始、産地品種銘柄の設定手続き
- ・令和6年度 一般種子生産開始（採種ほでの生産）
- ・令和7年度 一般栽培開始（あきたこまち⇒あきたこまちRへ切替え）

あきたこまちRの育成系譜

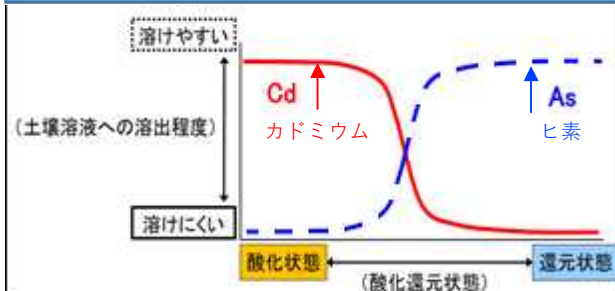


現在のカドミウム生産・流通防止対策

現在、「作らない」、「出さない」、「売らない」の3本柱で対策を実施

- ①作らない: 生産者が湛水管理を徹底
- ②出さない: 集荷団体が玄米の含有量を分析してチェック(※県でもクロスチェック)
- ③売らない: 食品衛生法の基準を超えた玄米は県が買入処理

水管理によるCdとAsの土壌溶液への溶出程度



湛水管理 →還元状態となり、ヒ素が溶出。
節水管理 →酸化状態となり、カドミウムが溶出。